

主要施策名：(4) 景観まちづくりの推進

事務事業本数：2

基本目標(章)	主要施策(節)	所管課	事務事業コード	事務事業
④ 便利で快適な都市づくり	(4) 景観まちづくりの推進	都市整備課	441-01	都市計画法等に基づく事務事業
			441-02	景観形成推進事業

事務ふりかえりシート

《基本情報》

事務事業の名称 【1】	都市計画法等に基づく事務事業		所管課 【2】	都市整備課						
			作成者(担当者)	森田文子						
総合計画での位置付け 【3】	基本目標(章)	④便利で快適な都市づくり							重点 施策 【4】	
	主要施策(節)	(4)景観まちづくりの推進								
	施策区分	(1)情緒的な景観をみせる場づくり							□ 該当	
実施の根拠 (複数回答可) 【5】	<input type="checkbox"/> 市長公約 ■ 法令、県・市条例等【 都市計画法、建築基準法、都市計画審議会条例等									

《事務事業の目的》

<p>事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか)</p> <p>【8】</p>	<p>玉名市の都市づくりのための基本的な考えを示し、土地の合理的利用に関する各種制限等について、その内容とプロセスを市民等に認識してもらうとともに、土地利用の規制・誘導を行っていく必要がある。</p>
<p>対象 (誰、何に対して、受益者等)</p> <p>【9】</p>	<p>市民</p>
<p>意図 (どのような状態にしたいか)</p> <p>【10】</p>	<p>玉名市が目指す都市の将来像に向けて規制誘導する。</p>

《事務事業の概要》

事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	
【11】	【 年度】 【 H17 年度から】 【 年度～ 年度まで】	
事業主体	<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> その他【 】	
実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助金等交付 <input type="checkbox"/> その他【 】	
事務事業の具体的内容 【14】	都市の発展を計画的に誘導し秩序ある市街地を形成し、人々の健康で文化的な都市生活と機能的な都市活動を確保するため、下記の事業を行っている。 ・都市計画審議会事業：都市計画行政の円滑な運営を図るため、審議会を開催する。 ・都市計画区域見直し事業及びマスタープラン策定事業：都市計画の指針として具体的に明示し都市計画マスタープランを策定する。 ・建築確認申請事前確認事務事業：建築確認の事前申請を行う。 ・開発行為・開発のいらない証明事務事業：開発区域内に存在する公共施設の管理者との協議を行う。 ・都計法第53条申請事務事業：都市計画施設の区域及び市街地開発事業の施行区域内の建築物の構造等の確認を行う。 ・建基法第42条道路の定義関係事務事業：位置指定道路の指定に伴う事務手続きを行う。 ・建築許可に係る意見書事務事業（建基法第43条・48条）：県がただし書き道路の許可を行う際に、市が意見を提出する。	
	【15】 事務事業を構成する細事業（16）本	
	⇒	① 都市計画審議会事業 ② 3D都市モジュールスペース開発事業 ③ 開発行為・開発行為のいらない証明事務事業

《事務事業実施に係るコスト》

			R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	全体計画
投入コスト	事業費 (千円)	国庫支出金	8,052	15,471	43,855	17,300	0
		県支出金	5,190	4	7	7	0
		起債	0	0	0	0	0
		受益者負担	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	10	0
		一般財源	29,520	18,275	44,210	18,202	0
		【16】 小 計	42,762	33,750	88,072	35,519	0
	職人 員 件 の 費	職員人工数	2.02	1.75	1.77	1.77	
		職員の年間平均給与額(千円)	5,429	5,554	5,727	5,752	
		会計年度任用職員人工数	0.00	0.00	0.00	0.00	
		会計年度任用職員の年間平均給与額(千円)	1,382	1,325	2,273	2,034	
		【17】 小 計	10,967	9,720	10,137	10,181	
	合 計		53,729	43,470	98,209	45,700	

《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	R04実績	R05実績	R06実績	R07計画
① 都市計画審議会事業	都市計画法によりその権限に属された事項を調査審議する。	開催回数	回	3	1	2	3
② 3D都市モデルユースケース開発事業	3D避難シミュレーションVR機器等の貸出を行う。	貸出件数	件	—	9	4	5
③ 開発行為・開発行為のいらない証明事務事業	開発行為の受付事務を行う。	受付件数	件	1	1	0	1

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)		計算方法又は説明	単位	R04目標	R05目標	R06目標	R07目標
				R04実績	R05実績	R06実績	
1	地域での防災講話の開催	3D避難シミュレーションVR機器等の貸出制度を活用した防災講話の開催件数	件	—	5	5	5
				—	7	9	
2							

《事務事業の評価》

評価視点			判断理由
(必要 妥当性) 【20】	【実施主体の妥当性】【20-1】 市が実施すべきであるか(民間、NPOなどが実施できないか。)	<input type="checkbox"/> 市が実施すべき <input type="checkbox"/> 市が実施する必要はない	
	【目的の妥当性】【20-2】 社会情勢の変化により、目的(対象・意図)の見直しは必要でないか。	<input type="checkbox"/> 必要なし <input type="checkbox"/> 必要あり	
	【休廃止の影響】【20-3】 事務事業を休止・廃止をした場合、市民に影響はないか。	<input type="checkbox"/> 影響なし <input type="checkbox"/> 影響あり	
有効性 【21】	【目標の達成度】【21-1】 成果指標の目標は達成できたか。 達成、未達成の原因はどのようなことが考えられるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	防災講話の申請が多かった
	【細事業の妥当性】【21-2】 目的(意図)を達成するため、細事業の構成は適当であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不適当	目的を達成する上で、適当な構成となっている。
効率性 【22】	【コストの低減】【22-1】 コストの低減について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり	事務事業の内容を考えると、人工数及び事務費の削減は難しい。
	【執行過程の見直し】【22-2】 執行過程の簡素化・改善について、検討の余地はないか。(デジタル技術の導入など)	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり	GISやオープンデータを活用し、窓口業務や台帳管理業務の簡素化が図れる。
	【民間活力の活用】【22-3】 民間のノウハウ活用について、検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり	特に3D都市モデルやデジタル化について、民間のノウハウの活用が可能
	【類似事業との統合】【22-4】 目的が類似する他の事業との統合について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり	目的が類似する事業はないが、DX推進と連携することは可能
公平性 【23】	受益者負担について、検討の余地はないか。 徴収を行っている場合は、負担水準(対象・金額)について検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし	

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対する見直し・改善状況	(前回のふりかえりの内容)
	都市計画法等に基づく届出事務等については、GISを活用し、効率的に台帳管理が図られるよう取り組む。 3D都市モデルについては、都市計画基本図の作成と併せた市全域の整備・更新を行うと共に、ユースケースとして、メタバース実証実験事業、避難シミュレーションVRの拡充等、これまで構築したものを活用した取組を実施する。 「都市計画道路整備プログラム」を策定し、計画的な整備を図っていく。
【24】	(前回のふりかえりに対する見直し・改善状況)
	都市計画基本図の更新が完了し、3D都市モデルの整備もすべての市域について完了した。また、メタバース実証実験事業により、観光や文化、ふるさと納税等他部署の施策の推進に寄与するメタバース空間の整備が完了した。さらに、避難シミュレーションVRを拡充し、幅広い活用が可能となった。「都市計画道路整備プログラム」の策定も含め、様々な成果物を有効に、効果的に活用していく。
次年度の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 終了
【25】	一部のオープン化等が充実してきたが、それぞれのシステムに一長一短があり、効果的な運用がさらにできるよう、関係課との協議を行っていく。 3D都市モデルを活用した、広域防災マップの構築や点群データ連携維持管理システムの構築などを進め、全庁的により効率的、効果的に業務を進める体制を整えていく。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見	令和3年度から着手した都市計画道路の検討(見直し業務・整備プログラム策定)については、令和6年度をもって完了し道路整備に移行する。また、3D都市モデルの実装に向けて、市全域の都市計画基本図の更新が完了済み。今後、防災・公共交通・インフラメンテナンスなどへの活用を拡大するため、各関係課と取り組みを進めていくため、現状のまま継続する。	評価責任者
【26】		中川英昭

事務ふりかえりシート

《基本情報》

事務事業の名称 【1】	景観形成推進事業		所管課 【2】	都市整備課			
			作成者(担当者)	森田文子			
総合計画での位置付け 【3】	基本目標(章)	④便利で快適な都市づくり				重点 施策 【4】 <input type="checkbox"/> 該当	
	主要施策(節)	(4)景観まちづくりの推進					
	施策区分	(1)情緒的な景観をみせる場づくり					
実施の根拠 (複数回答可) 【5】	<input type="checkbox"/> 市長公約 <input checked="" type="checkbox"/> 法令、県・市条例等【 景観法、屋外広告物法、熊本県景観条例、玉名市景観条例 】 <input checked="" type="checkbox"/> その他の計画【 玉名市都市計画マスタープラン、玉名市景観条例 】 <input type="checkbox"/> 該当なし						
事業区分 【6】	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> 義務的事業 <input type="checkbox"/> 建設・整備事業 <input type="checkbox"/> 施設の維持管理事業						
	<input type="checkbox"/> 内部管理事務 <input type="checkbox"/> 計画等の策定及び進捗管理事務						
会計区分 【7】	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別・企業会計【		】	款 8	項 5	目 1	細目 6

《事務事業の目的》

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか) 【8】	玉名市には、多数の歴史的資源や自然景観など長い歴史の中で大切に受け継がれてきた数々の歴史的資源が点在している。この景観資源を次世代に引き継いでいくために、玉名市としてそれらの資源の保全及び景観と調和した環境の形成等について独自に保護していくことが求められている。
対象 (誰、何に対して、受益者等) 【9】	市民(地域住民や来訪者)
意図 (どのような状態にしたいか) 【10】	玉名市が「景観行政団体」に移行し、良好な景観形成や景観保護等を推進するための基本方針である「景観計画」及び独自性を持った「景観条例」等を策定し良好な景観形成及び景観保護に努めることで、市民が愛着と誇りを持てる郷土づくりに資することができる環境を構築する。

《事務事業の概要》

事業期間 【11】	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【 年度】 【 H28 年度から】 【 年度～ 年度まで】		
事業主体 【12】	<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> その他【		
実施方法 【13】	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託・請負 <input type="checkbox"/> 一部委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助金等交付 <input type="checkbox"/> その他【		
事務事業の具体的内容 【14】	・「玉名市景観計画」策定に伴う玉名市景観審議会の開催・運営及び景観法に基づく届出事務の運用 ・玉名らしい景観資源を発信するため景観写真集の発行ほか、広報やホームページを活用して情報発信を行う ・市民の景観まちづくりに向けた意識醸成のための景観交流会・学習会の開催 ・景観形成にかかる修景事業等に対する助成事業の実施 ・熊本県の権限移譲として屋外広告物条例制定の検討		【15】 事務事業を構成する細事業(5)本
			① 景観形成推進事業
			② 景観資源等掘り起こし・発信事業
			③ 景観形成支援事業

《事務事業実施に係るコスト》

			R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	全体計画
投入コスト	事業費 (千円)	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	1,700	600	1,000	0
		受益者負担	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	1,367	1,357	1,120	1,389	0
		【16】 小 計	1,367	3,057	1,720	2,389	0
	職人 員 の 費	職員人工数	0.50	0.42	0.40	0.40	
		職員の年間平均給与額(千円)	5,429	5,554	5,727	5,752	
		会計年度任用職員人工数	0.00	0.00	0.00	0.00	
		会計年度任用職員の年間平均給与額(千円)	1,382	1,325	2,273	2,034	
		【17】 小 計	2,715	2,333	2,291	2,301	
	合 計		4,082	5,390	4,011	4,690	

《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	R04実績	R05実績	R06実績	R07計画
① 景観形成推進事業	景観学習会及び景観計画策定委員(H28から景観審議会)会を開催する	会議開催回数	回	2	1	1	1
② 景観資源等掘り起こし・発信事業	景観計画の周知や景観資源や学習活動の情報発信のため広報やホームページを活用する	「広報たまな」掲載数(折込チラシ含む)	回	5	5	1	5
③ 景観形成支援事業	景観に関する学習・情報交流の場として、景観交流会及び学習会の実施	景観交流会及び学習会の開催回数	回	3	1	1	1

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)		計算方法又は説明	単位	R04目標	R05目標	R06目標	R07目標
				R04実績	R05実績	R06実績	
1	景観法及び「玉名市景観条例」に基づく届出の推移(「玉名市景観計画」の浸透度)	届出・協議件数(屋外広告物の協議含む)	件	25	25	25	25
				26	29	30	
2	玉名市景観交流会の参加人数の推移(市民の景観に対する関心度)	参加人数	人	60	50	50	50
				76	22	28	

《事務事業の評価》

評価視点		判断理由
(必要妥当性) 【20】	【実施主体の妥当性】【20-1】 市が実施すべきであるか(民間、NPOなどが実施できないか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施すべき <input type="checkbox"/> 市が実施する必要はない 市が事業として実施しながら、地域住民や民間団体が地域の特性に応じて取り組んでいけるよう促していく必要がある。
	【目的の妥当性】【20-2】 社会情勢の変化により、目的(対象・意図)の見直しは必要でないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 必要なし <input type="checkbox"/> 必要あり 景観形成に係る市民の意識の熟度や地域の景観形成状況により、地区や内容の見直しはあるが、対象や意図は変わらない。
	【休廃止の影響】【20-3】 事務事業を休止・廃止した場合、市民に影響はないか。	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり 良好な景観形成が図られなくなる恐れがあり、市の魅力が低下する恐れがある。
有効性 【21】	【目標の達成度】【21-1】 成果指標の目標は達成できたか。達成、未達成の原因はどのようなことが考えられるか。	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達成 景観交流会については、温泉地区の夜間景観をテーマとし、平日に開催したため、小規模で実施した。
	【細事業の妥当性】【21-2】 目的(意図)を達成するため、細事業の構成は適当であるか。	<input type="checkbox"/> 適当 <input checked="" type="checkbox"/> 不適当 「景観資源等の掘り起こし・発信」と「景観活動担い手」の育成は、相互に連携が強く、細事業も一本化した方がよい。
効率性 【22】	【コストの低減】【22-1】 コストの低減について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 景観審議会運営ほか、景観形成に資するため最低限の経費であるため。
	【執行過程の見直し】【22-2】 執行過程の簡素化・改善について、検討の余地はないか。(デジタル技術の導入など)	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり GIS等を活用し、景観法に基づく届出や補助金の申請事務など、効率的に実施できる可能性がある。
	【民間活力の活用】【22-3】 民間のノウハウ活用について、検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり 景観形成に係る基準について、民間のアドバイザーから意見を聞き、効果的に進めることができる可能性がある。
	【類似事業との統合】【22-4】 目的が類似する他の事業との統合について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり 目的が類似する事業はないが、民間との連携や他事業(観光業・地域振興・文化等)との連携が可能。
公平性 【23】	受益者負担について、検討の余地はないか。徴収を行っている場合は、負担水準(対象・金額)について検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 余地なし 補助金交付事業のため

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対する見直し・改善状況	(前回のふりかえりの内容)
	街並みの醸成のため、市民の方に知ってもらうためにも地道な広報活動や学習の機会が必要。
【24】	(前回のふりかえりに対する見直し・改善状況)
	景観交流会では、温泉地区の夜間景観について、講演とライトアップの社会実験を行い、その活動が地元との交流のきっかけとなった。目に見えるかたちでの実践が啓発につながる。景観形成支援補助金については、認知が進み、申請件数が増加した。制度の趣旨に合った適正な運用を図っていく必要がある。
次年度の方向性	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 終了
【25】	次年度の方向性に対する判断理由及び見直し・改善の具体的内容
	現状の規模で継続した取り組みを行い、良好な景観形成に対する意識醸成をはかっていく。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見	玉名市景観計画の景観形成方針に基づき、市民の景観意識や機運を高め、玉名らしい景観形成を図る。また、温泉地区では、講演会後にまち歩きやライトアップの体験を行い、参加者にも好評を得ている。引き続き、社会実験等を通して、市民の意識や機運の醸成を図るため、現状のまま継続する。	評価責任者
【26】		中川英昭